

受講料無料! 事前申込不要

2017 (平成29) 年度
札幌学院大学 人文学部
公開講座

人間論 特殊講義

2017年 5月13日(土)~7月8日(土)

9:10~12:20 (休憩10:40~10:50) ※最終日(7月8日)のみ9:30開場 10:00開会

会場

札幌学院大学
D館202教室 (D館2階)

コーディネーター: 新田 雅子 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

《江別市民カレッジ講座》

江別市と市内4大学が連携して行う公開講座です。

《道民カレッジ連携講座》

全講義の3分の2以上 (15回中10回以上) 出席した方へ単位認定いたします。
(単位認定については教育支援課までお問い合わせください。)

総合テーマ
人間の生命と
尊厳について考える
相模原事件から1年

2016年7月26日未明、19人もの方々が1人の人間に殺されるという恐ろしい出来事がありました。あのニュースを聞いた時、あなたは何を感じ、どう思いましたか。札幌学院大学 人文学部は「相模原事件から1年」をひとつの契機として、さまざまな視点から人間の生命と尊厳について考える連続講座と対話集会を企画しました。憲法、哲学、政治学、経済学、社会学、障害学、精神保健福祉、発達心理学、教育、保育、療育、そして臨床心理学など、多岐にわたる〈人間〉にかかわる専門領域を基盤とする、学内外の講師が登場します。最終日には、「人文学部40周年記念事業」として、作家・社会活動家の雨宮処凜 (あまみや かりん) さんをお招きし、全体を統括するような対話集会を開催します。障がいの有無に限らずさまざまな生きづらさを生み出す現代社会の問題を捉えるとともに、多様な生を守り支えるための発想や仕組みを検討し、これからの社会のあり方や暮らしについて、学生や市民が共に考える機会としたいと思えます。

第1回 5月13日(土) 1講時 | 新田 雅子 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

ガイダンスとイントロダクション

第2回 5月13日(土) 2講時 | 新田 雅子 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

D.トランポ『ジョニーは戦場へ行った』のメッセージ

第3回 5月20日(土) 1講時 | 伊藤 雅康 (札幌学院大学 法学部 教授)

人間の尊厳と人権保障

第4回 5月20日(土) 2講時 | 佐藤 満 (札幌学院大学 人文学部 教授)

絆を結ぶ、心をつなぐ若者たち：
障害当事者の若者と学生との交流

第5回 5月27日(土) 1講時 | 神谷 章生 (札幌学院大学 法学部 教授)

「医療」政策における正義の問題：
現代功利主義の射程

第6回 5月27日(土) 2講時 | 宮野 晃一郎 (札幌学院大学 非常勤講師)

生命の管理運営と優生思想：
ミシェル・フーコーの生権力論より

第7回 6月3日(土) 1講時 | 望月 和代 (札幌学院大学 人文学部 教授)

二つの声：重大な他害行為を起こした
精神障害者の支援から、いのちについて問う

第8回 6月3日(土) 2講時 | 藤野 友紀 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

「発達」を再考する：
障害のある子の教育実践から見えてくるもの

第9回・第10回 6月10日(土) 1・2講時 | 安積 遊歩 (当事者・ピアサポーター)
松川 敏道 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

内なる優生思想と向き合う：当事者の視点から

第11回 6月17日(土) 1講時 | 浅川 雅己 (札幌学院大学 経済学部 准教授)

『資本論』を生命論・人間論として読む

第12回 6月17日(土) 2講時 | 伊藤 克実 (札幌学院大学 人文学部 教授)

未来に つなぐ いのち：保育が問うこと

第13回 7月1日(土) 1講時 | 新田 雅子 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

現代棄老譚考：「姥捨て」の今日的展開

第14回 7月1日(土) 2講時 | 村澤 和多里 (札幌学院大学 人文学部 教授)

生きることを諦める若者たち：
若者たちを蝕む「セルフネグレクト」

7月8日(土) 人文学部創設40周年記念事業 ※詳細は別途

9:30開場 10:00開会 (~12:20予定) SGUホール (G館1階)

対話集会

雨宮処凜さんと、人間の生命と
尊厳について考える：相模原事件から1年

あまみや かりん
雨宮 処凜 (作家・活動家)



第1回 | 5月13日(土) 1 講時
ガイダンスとイントロダクション

第2回 | 5月13日(土) 2 講時
D.トランポ「ジョニーは戦場へ行った」のメッセージ

第13回 | 7月1日(土) 1 講時
現代棄老譚考：「姥捨て」の今日的展開

新田 雅子 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

1974年札幌市出身。1998年立教大学大学院社会学研究科修士課程修了。2003年同社会学研究科博士後期課程単位取得退学。2003年札幌学院大学人文学部人間科学科に着任。研究テーマは老いagingと老人保健福祉介護政策に関する福祉社会学的研究。著作に『自立と福祉』(現代書館・共著)。現在、江別市介護保険事業計画等策定委員会委員長、北海道福祉サービス運営適正化委員会苦情解決委員。

第3回 | 5月20日(土) 1 講時
人間の尊厳と人権保障

伊藤 雅康 (札幌学院大学 法学部 教授)

1963年愛知県生まれ。名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学。1991年に札幌学院大学に着任。憲法学専攻。労働者の経営参加権が年来的研究テーマであるが、社会が直面する課題について憲法研究者として考え発言することも大切であるため、着任当時はPKOや政治改革、最近では憲法改正問題などについてお話をさせていただく機会も大切にしている。

第4回 | 5月20日(土) 2 講時
絆を結ぶ、心をつなぐ若者たち：障害当事者の若者と学生との交流

佐藤 満 (札幌学院大学 人文学部 教授)

北海道出身。日本社会事業大学社会福祉学部卒業。北海道教育大学札幌校大学院修士課程修了。北海道特別支援学校教諭、福祉分野ではグループホームなどのサービス管理責任者等で勤務。現在、札幌学院大学人文学部で特別支援教育関連講義(障害児者教育論・肢体不自由教育)を担当している。障害児者から学ぶことや学生がどのように障害児者とかわり成長しているのかに関心がある。また、表出言語を使わなくともコミュニケーションが可能なことを意図理解の観点から考えている。

第5回 | 5月27日(土) 1 講時
「医療」政策における正義の問題：現代功利主義の射程

神谷 章生 (札幌学院大学 法学部 教授)

名古屋大学法学部・大阪市立大学大学院 行政学・公共政策論・政治学
津市立三重短期大学・北海道教育大学を経て2005年より札幌学院大学法学部教授

第6回 | 5月27日(土) 2 講時
生命の管理運営と優生思想：ミシェル・フーコーの生権力論より

宮野 晃一郎 (札幌学院大学 非常勤講師)

札幌市出身。千葉市育ち。千葉市立千葉高等学校卒業。北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。専門は、哲学・倫理学、ミシェル・フーコー研究。主な論文に「フーコーと障害の社会モデル—身体と権力の関係をめぐって—」(『倫理学年報』日本倫理学会、第62集、2013年)など。

第7回 | 6月3日(土) 1 講時
二つの声：重大な他害行為を起こした精神障害者の支援から、いのちについて問う

望月 和代 (札幌学院大学 人文学部 教授)

福岡県出身。北星学園大学社会福祉学専攻(社会福祉学修士)。福岡、苫小牧等の精神科医療機関等で精神保健福祉士として勤務の後、2004年から札幌、横浜、大阪の保護観察所で社会復帰調整官として11年間勤務した。2015年から札幌学院大学で精神保健福祉士の養成等を行いながら、加害者・被害者家族の支援等の活動をしている。

第8回 | 6月3日(土) 2 講時
「発達」を再考する：障害のある子の教育実践から見えてくるもの

藤野 友紀 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

香川県生まれ。京都大学大学院教育学研究科博士後期課程中退、修士(教育学)。北海道大学教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター助手等を経て、2008年より札幌学院大学勤務。専門は発達心理学、保育学。著作に「発達を学ぶ 発達に学ぶ」(全障研出版部)、『知ろう 語ろう 発達のこと』(同、共著)など。

第9回・第10回 | 6月10日(土) 1・2 講時
内なる優生思想と向き合う：当事者の視点から

安積 遊歩 (当事者・ピアサポーター)

福島県出身。生後約40日目で「骨形成不全症」と診断される。1983年から半年間、アメリカのパークレー自立生活センターで研修を受け、ピア・カウンセリングを日本に紹介。多彩な経歴をもち、日本の障害者運動を牽引してきた第一人者。今も当事者運動に精力的に関わり様々な問題を社会に発信し続けている。

松川 敏道 (札幌学院大学 人文学部 准教授)

札幌市出身。障害者の支援施設で約10年働いた後、1998年北海道医療大学看護福祉学部助手を経て、2002年札幌学院大学人文学部人間科学科に着任、現在に至る。社会福祉法人あむ理事長、北海道障がい者就労支援推進委員会会長なども務める。専門は、障害者福祉論、障害学。

第11回 | 6月17日(土) 1 講時
『資本論』を生命論・人間論として読む

浅川 雅己 (札幌学院大学 経済学部 准教授)

1965年生まれ。法政大学経済学部卒業、東京経済大学大学院経済学研究科経済学専攻修士課程修了。2003年より札幌学院大学経済学部准教授。マルクス経済学、政治経済論、環境経済論を担当。日本Marx-Engels-Gesamtausgabe編集委員会 編集委員。研究テーマは資本主義の矛盾(環境問題、性別秩序、労働問題)とアソシエーション運動。

第12回 | 6月17日(土) 2 講時
未来に つなぐ いのち：保育が問うこと

伊藤 克実 (札幌学院大学 人文学部 教授)

函館市生まれ。北海道大学大学院教育学研究科修了(教育学修士)。1975年に保育の世界に。2014年3月まで札幌市白石区大谷地たかだ保育園の園長を務める。2014年4月より札幌学院大学人文学部こども発達学科に着任。臨床教育学の視点から保育を考えている。

第14回 | 7月1日(土) 2 講時
生きることを諦める若者たち：若者たちを蝕む「セルフネグレクト」

村澤 和多里 (札幌学院大学 人文学部 教授)

兵庫県出身。北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。博士(教育学)。現在、札幌学院大学人文学部臨床心理学科教授。専門は、ひきこもりの問題を中心にした青年期の臨床心理学。著書は、『ポストモダニズム時代の若者たち』(共著、2012年、世界思想社)、『ひきこもる心のケア』(監修、2015年、世界思想社)。

第15回 | 7月8日(土) 人文学部創設40周年記念事業 ※詳細は別途

9:30開場 10:00開会(～12:20予定) SGUホール(G館1階)
対話集会 雨宮処凛さんと、人間の生命と尊厳について考える
：相模原事件から1年

あまみや かりん
雨宮 処凛 (作家・活動家)

1975年北海道生まれ。作家・活動家。2000年 自伝のエッセイ『生き地獄天国』(太田出版/ちくま文庫)でデビュー。以来、『生きづらさ』についての著作を発表する一方、イラクや北朝鮮への渡航を重ねる。2006年からは新自由主義のもと、不安定さを強いられる人々「プレカリアート」問題に取り組み、取材、執筆、運動中。メディアなどでも積極的に発言。3.11以降は脱原発運動にも取り組む。2007年に出版した『生きさせろ! 難民化する若者たち』(太田出版/ちくま文庫)はJCI賞(日本ジャーナリスト会議賞)を受賞。著書に『プレカリアートの憂鬱』(講談社)、『雨宮処凛の闘争ダイアリー』(集英社)、『14歳からわかる生命倫理』(河出書房新社)、『小心者の幸福論』(ポプラ社)、小説『バンギャル ア ゴーゴー』(講談社文庫)、『バカだけ社会のことを考えてみた』(青土社)、『命が踏みにじられる国で、声を上げ続けるということ』(創出版)、『仔猫の肉球』(小学館)、『生きづらい世を生き抜く作法』(あけび書房)、『一億総貧困時代』(集英社インターナショナル)、『自己責任社会の歩き方 生きるに値する世界のために』(七つ森書館)など多数。「反貧困ネットワーク」世話人、『週刊金曜日』編集委員、フリーター全労組組合員、「こわれ者の祭典」名誉会長、「公正な税制を求める市民連絡会」共同代表。



お問い合わせ先

札幌学院大学 教育支援課(人文学部)

〒069-8555 江別市文京台11番地

☎011-386-8111(内線3223・3213 担当:中村・高橋)

URL◎http://www.sgu.ac.jp



札幌学院大学